多 摩 市 立 瓜 生 小 学 校

# 学 校 だ よ り

平成２９年度　第７号
平成２９年　１０月１日

## 思 い を 届 け る

校長　吉 田　正 行

「施設に演奏に行く前、おじいちゃんやおばあちゃんは家族に会えなくてかわいそうだなと思っていました。でも太鼓を打ち終わった後、すごくきれいな笑顔が私を包んでくれて、やってよかったと思いました。将来は人々を笑顔にする仕事をしたいです。」

これは、６年生が近隣の高齢者施設「ケアプラザ多摩」に行き、和太鼓の演奏を行った後の感想の一つです。

瓜生小学校では１年生から和太鼓に触れ、和太鼓の音や音を合わせることを楽しみながら、日本の伝統文化である和太鼓の歴史を学び演奏に取り組みます。６年生は６年間学んだ瓜生太鼓のまとめとして、学習したことを演奏を通して下級生や地域の方々に発信し、自分たちの思いを届けています。

９月から本格的に始まった練習は、音楽専科の指導の下、日本の武道や芸の稽古と同じように言動や行動が礼儀正しく進められ、常に整然と行われます。それと同時に気持ちを鎮め、精神統一して物事に取り組むという和の作法を習得し、心を磨いていくようにしています。和太鼓の原点は和の精神であると考え、日本にはこんな素晴らしい音があり、文化があるということを肌で感じ、それを心を込めて伝えるようにしています。

今回は敬老の日の前、９月１５日に学校のすぐ近くにある「ケアプラザ多摩」に行き、「子どもばやし」を披露しました。「子どもばやし」はゆったりとしたリズムから速いリズムへと曲想が変化するとともに、流し打ちやバチ回しなど、動きも激しいので、子供たちの心が一つにならないとうまくいきません。「施設で暮らす方々がいつまでも元気でいてほしい」という思いを届けようと必死に練習に励んできました。中には遠くに住むおばあちゃんに聞かせるつもりで演奏すると張り切っている児童もいました。

施設で瓜生太鼓を披露する６年生

演奏が終わるとフロアにいる方だけでなく、２階、３階のベランダから見ている入居者の方からも大きな拍手や「ありがとう。よかったよ」という言葉をいただきました。中には涙を流して喜んでいる方もいて、見ている私も目頭が熱くなりました。

和太鼓の演奏を通して、６年生は自分が誰かの役に立っているという自己有用感を高めることができました。それは「お年寄りの方々を元気にできたような気がした」「ケアプラザの皆さんが笑顔になっていて、自分の方がすごく元気をもらった」「練習での自分の演奏を聞いて前までは自分に自信がもてなかったけど、今回の自分の演奏を終えて自信がもてました」という感想からも感じ取れました。今回の感動が自分の将来の夢や職業に影響を与えることもあるかもしれません。立派な６年生の姿に大きな成長を感じるとともに、これからも地域の中で子供たちが成長できる場を設定していきたいと思います。